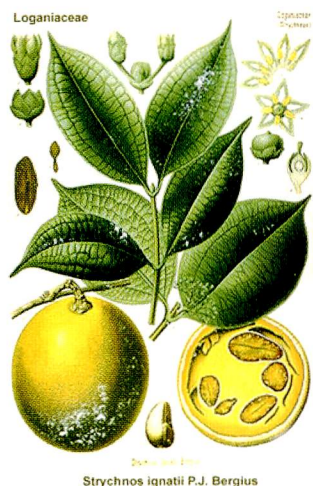


Ignatia amara イグナチウス豆 [急な悲しみ、ため息]

Strychnos ignatii Berg

BACKGROUND

St. Ignatia's been seed (タカラマメの種) の原産国は、インド、中国、フィリピン諸島などです。大きなマメの木で、長くうねった形の白い花を咲かせます。1つの鞘の中に、10～24個の種が入っています。種は重くて硬く、形はアサガオの種のようなのですが、大きさは20×15mmくらいあります。フィリピン諸島の原住民の間では、この種はあらゆる病から身を守る、お守りとされていました。17世紀にスペインのイエズス会修道士によって、ヨーロッパに紹介されて以来、痛風や喘息、てんかん発作の治療などに用いられていました。Ignatiaという名は、イエズス会の創設者でカトリック教司祭である、Ignatius Loyolaの名に因んで命名されています。



イグナシアの種には、飲み込んだときに神経系に非常に強い毒性を示す、ストリキニーネが含まれています。ストリキニーネの量は、Nux vomicaよりも多く、乾燥重量の2.5～3%を占めています。Ignatiaは、Nux vomicaとほぼ同じようなアルカロイドを含有していますので、その毒性に関しては似ていますが、面白いことにレメディの効果効能やconstitutionalタイプはまったく異なります。これは、ホメオパシーがただ単に原料の成分からだけの効果ではなくて、その植物全体の波動が含まれるものだからです。

イグナシアの種の多量摂取による毒性は、大脳髄質の過剰興奮による激しい痙攣とてんかん発作が起こり、最後には骨格筋の収縮の消失、死へとつながります。この症状の原因は、主にストリキニーネによるも

のです。

MATERIAL

種を乾燥させて粉碎した後、アルコールに5日以上浸けたもの

FIRST PROVING

ハーネマン (『Materia Medica Pura』第3版、第2巻)

MIND

Ignatia体質の人は、理想主義でロマンチック、非常に過敏で繊細です。健康なときは、もともと外向的で、はきはきとした活発な性格をしています。多少、言動が衝動的になる傾向が見られますが、攻撃的な性格ではありません。

悲観的な面が強く、急な深い悲しみによって、全身状態が悪化していきます。ひとたび悲しみに襲われると、イライラしたり、ヒステリーを起こしたり、悲しみのために不眠症になったり、食事が喉を通らなくなったりします。ため息をよくつきます。悲しんでいても慰められるのを嫌います。激しい感情のため、頭に釘を打たれているような頭痛が出ることがあります。顔にだけ汗をかきます。

気分はコロコロ変わることが多く、今笑っていたかと思うと、数分後には落ち込んでいる、などということがよく起こります。泣いていても、しばらくするとケロッとしていて、悩んでいたことさえも簡単に忘れてしまいます。このタイプが心因性の障害をもつと、ホルモンバランスに影響を与えやすい特徴をもっています。

理想が強いので、すべて自分の望みどおりにいかないと、大きな感情的矛盾が生じます。自分の感情を大げさに誇張して表現する傾向があります。Natrium muriaticumはもっと落ち込んでうつ状態が強く、長く続きます。水や波が自分にかかってくる夢を見ることがあります。人混みを嫌い、また鳥、とくに鶏を怖がります。旅行は好きなほうです。タバコの煙、ワイン、ブランデーが嫌いです。とくにタバコの煙に対する嫌悪感は強いほうです。

食べ物では、酸味の強いもの、生もの、チーズを好みます。酸っぱいフルーツは好きですが、ほとんどのフルーツは嫌いです。それは、フルーツで下痢をして

しまうことがあるからです。ほかに嫌いな食べ物は、牛乳、温かい食べ物、肉、飲酒などがあります。食事の中に顔にだけ汗をかく傾向があります。感情的なストレスは、直接胃に影響を与えて、食欲不振になります。また人によっては、食欲不振の代わりに過食症になってしまう例もあります。

このレメディで特徴的なことは、痛みに対して過敏、匂いに関して過敏、喉に固まりが存在する感覚、虚脱感、突然の一時的な痛みが小さな領域に起こること、頻回にため息をつくこと、発作的にあくびが出るなどです。

AFFINITY

Ignatiaは、主に精神、神経系、脳脊髄軸、感覚中枢に親和性をもっています。Ignatiaは、主に女性や子供に使われることが多く、急な悲しみのほか、体質レメディとしてもよく使用されます。

CLINICAL APPLICATIONS

Ignatiaは、感情の救急薬としてもっとも効果のあるレメディの1つで、急な悲しみや失望、失恋、ヒステリー、情緒不安定などの感情的な症状を和らげます。また、肉体的疾患においても感情的・精神的な影響が大きい場合には効果があります。Ignatiaは、Natrum muriaticum、Phosphoric acidと並んでGrief remedyの1つです。

■精神

- ・急な深い悲しみ：死別、失恋などの急な悲しい出来事によって悲観している場合。
- ・悲しみ後の諸症状：悲しみのために頭痛や脱毛、背中の痙攣、不眠症などのほか、さまざまな症状が現れることがあります。生理が止まってしまうことがあります。悲しいときに慰められると悪化します。
- ・感覚過敏症、神経過敏症
- ・摂食障害、過食症
- ・うつ状態：ため息ばかりつきます。あくびも出ます。深い息もします。
- ・感情的障害：情緒不安定。気分がころころ変わります。心的外傷後ストレス障害
- ・不眠症：悲しいときに眠れなくなります。眠りが浅く、小さな音でも目が覚めてしまいます。寝返りも頻繁にします。
- ・感情の原因による頻脈
- ・ヒステリー球：気分がよく変わります。
- ・閉所恐怖症

■神経

- ・痙攣、チック：感情的になると起こる傾向があります。

す。恐怖からも起こります。とくに口もとがヒクヒクします。

- ・痙攣発作、脳炎
- ・頭痛、片頭痛：悲嘆の後に起こります。あくびや嘔吐の後に頭痛が治まることがあります。
- ・眼精疲労：眼瞼の痙攣と眼の周辺部の神経痛を伴います。眼瞼は渴き気味です。
- ・腰痛

■消化器系

- ・咽頭痛：喉に固まりがあるような感じがして、ヒリヒリしてむずがゆくなります。固形物を飲み込むことによって症状が改善します。
- ・吐吐、嘔吐：ヒステリーからくる場合があります。夜間に夕食を吐いてしまいます。口の中に酸味がかった味がします。
- ・しゃっくり：食事、喫煙、感情の乱れで悪化します。
- ・濾胞性扁桃炎
- ・直腸痛：排便後に痛みをとまなう絞扼。Ignatiaは、直腸や肛門の痛みを伴う各種疾患に使われます。痛みの特徴は、鋭く刺すような痛みが直腸に走る、あるいは、排便後の肛門の絞扼痛で座していると楽になるもの、などがあります。
- ・直腸脱
- ・顎関節症、神経性開口障害：顔と唇の筋肉の痙攣があります。下顎に脱臼したかのような痛みがあります。下唇の内側にも痛みを感じます。片方の頬は紅潮し熱をもっています。休息で顔色が変わります。

■その他

- ・咳：いがらっぽい咳です。咳が続くほど、いがらっぽさが悪化します。
- ・喘息
- ・生理痛：出産時のような有痛性痙攣があります。
- ・無月経：神経性の原因によります。
- ・関節炎
- ・慢性疲労症候群
- ・脱毛症：ときに激しい悲嘆の後に起こります。
- ・特発性多毛症：女性に起こります。月経異常や不妊症を伴うことがあります。

MODALITY

- ▶ 暖めること、食べること、排尿後（ゆっくりと症状が消えていきます）、体位を変えること、患部を固く押すこと、排尿、深呼吸など
- ◀ 冷たい空気、悲観や怒りといった感情的ストレス、タバコの煙の匂い、物や大切な人を失ったとき、寒さ、匂い、かがむこと、歩くこと、コーヒーなどです。

酸っぱい物、酢、バターやチーズ、パンを好みます。コーヒーは人によって好転したり悪化したりします。甘い物、アルコール、フルーツで感情的に悪化します。

RELATIONS

- ・ Ignatia は、悲しみに関しては深く作用するレメディではありません。
- ・ Natrum muriaticum や Sepia の complementary remedy になります。

- ・ Antidoted by : Pulsatilla, Arnica, Camphora, Chamomilla, Coccus, Coffea
- ・ It antidotes : Selenium, Zincum, Pulsatilla, コーヒー, ブランデー, タバコ, カモミールティー
- ・ Compatible : Arsenicum album, Belladonna, Calcarea carbonica, China, Lycopodium, Nux vomica, Pulsatilla, Rhus toxicodendron, Sepia, Sulphur, Zincum metallicum
- ・ Incompatible : Nux vomica, コーヒー, タバコ

Iodium ヨウ素 I₂ [甲状腺]

Iodine-I₂

BACK GROUND

Iodium は、原子番号 53、原子量 126.904473 のヨウ素です。融点 113.6℃、沸点 182.8℃、密度は 4.93g/cm³です。単体は二原子分子です。黒紫色の金属光沢のある板状結晶で昇華性があります。水にはほとんど溶けませんが、多くの有機溶媒に溶けます。とくにヨウ化カリウム水溶液のような I イオンが存在する水溶液にはよく溶けます。蒸気は多くの金属と反応し、有害ですがその一方、生物の生存にはなくてはならない必須元素です。ヨウ素の原料としては、天然ガスに随伴して出てくる地下かん水と、チリ硝石の原鉱石であるカリチエがあります。

ハロゲン族で塩素に次いで発見された元素であり、1812年に H.Courtois によって、海藻灰からつくられたソーダの中から発見されました。Iodine の名は、翌年にフランスの化学者 Gay Lussac により、その蒸気の色にちなんで（ギリシア語で ioeides すみれ色）命名されました。英名 Iodine、ドイツ名 Jod およびラテン名 Iodium などは、みなこれに由来しています。日本名のヨウ素は、そのまま音訳したものです。ヨウ素の用途としては、医薬品、シャンプー、白熱灯の封入ガス、写真感光剤、洗剤、除草剤、防カビ剤、肥料、研究用試薬、色素、鳥の飼料、医療用造影剤などがあります。

ヨウ素は、主に甲状腺に取り込まれ、甲状腺ホルモンであるサイロキシンの構成成分になります。ヨウ素の生理作用はサイロキシンの働きに直結しているので、新陳代謝やエネルギー産生の向上、成長作用に関係しています。体内のヨウ素の 2/3 は甲状腺の中に存

在しています。

日本のような海洋国では、海草、魚介類からヨードを容易に摂取することができますが、アメリカ、ヨーロッパ大陸などには簡単に摂取することができない国、地域が存在します。このような地域から来た患者さんは、Iodine の感受性が違ってきますので、重要なレメディの 1 つにあげられます。ヨードは、鉄やビタミン A の欠乏症とともに世界 3 大栄養素欠乏症の 1 つにあげられ、不足すると甲状腺腫や骨軟化症となり、倦怠感や機敏さを欠き、心身ともに不活発になります。子供では発育が遅れます。

Iodine の過剰は、一般的な代謝、リンパ系、各種腺組織、粘膜、漿膜、皮膚に影響を及ぼすことがわかっています。

■代謝

- ・ 甲状腺機能亢進症の症状が出ます。食欲亢進にもかかわらず体重減少、ふるえ、動悸、発汗、イライラ感、神経過敏、情緒不安定など（慢性化の場合は甲状腺機能低下症になります）。

■リンパ系

- ・ 痛みを伴わないアデノパシー

■各種腺

- ・ 甲状腺の肥大、嚢胞
- ・ 唾液腺の腫脹
- ・ 精巣肥大
- ・ 乳腺の萎縮
- ・ 右卵巣の嚢胞
- ・ 脾臓の嚢胞

■粘膜の刺激（とくに眼、呼吸器系、消化器系、生殖